科目名	成人看護 急性期実習					DP1　DP2　DP3 DP4　DP5　DP6			看護高等課程
学年	2年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	90 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員
科目 概要	急性期実習は、周手術期の患者を対象に術前・術後の看護実践を学ぶ。昨今、低手術侵襲の手術が普及し、退院日数が短縮化されている。患者には術式別のクリティカルパスが適応され、退院まで計画的に検査・治療が行われている。手術侵襲や術後合併症予防、退院指導、患者の発達課題や生活背景を通して、必要な生活の再構築への援助についても経験し、術前・術後の看護の基礎的能力を習得する。								
到達 目標	1. 術式や麻酔方法によって発生する可能性のある合併症を理解し、術前・術後の援助を考えることができる。 2. 術後経過を観察し、不安・苦痛を軽減するための援助を考え、実践することができる。 3. 手術を受ける患者・家族の退院後の生活について不安な思いに寄り添った関わりができる。 4. 手術患者に実践した看護援助が、患者の心身の回復にどう影響したのか、経過を凝縮して説明することができる。								

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	病棟	実習期間：病棟（10日間） 実習時間：8：00～15：30（実習時間9時間） 実習先：社会福祉法人恩賜財団済生会支部 佐賀県　済生会唐津病院 実習方法：学生4～5名を1グループとし、10日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：10日間の病棟実習にて手術を受ける入院患者を1名受け持ち、看護師の助言をもとに術前準備、術直後の観察、モニタリング機器やドレーン・カテーテルなどの管理、離床時の声掛け等、見学及び指導者と共に実施する。詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	急性期・回復期・慢性期3か所の総合評価で100点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	周術期看護、成人看護教科書他は実習オリエンテーション時に提示する。また、適宜資料を配布する。
履修上の 注意点	手術に伴う生体反応や術後の経過など事前の学習が必要となるため、自己にて積極的に学習を行うことが必要となる。実習で判断に困った際は、臨床指導者・指導教員へ積極的に相談を行い、問題を解決する努力をすること。

科目名	成人看護 回復期実習					DP1　DP2　DP3 DP4　DP5　DP6			看護高等課程
学年	2 年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	90 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員
科目 概要	回復期実習では回復期にある患者の回復経過や起こりうる合併症を理解した上で、患者の観察や援助を行う事が必要である。また、疾患の影響で生じる ADL 低下、苦痛を把握し、患者が現状を受容し、元の生活に戻れるように援助する。その為に患者のニードを把握し、患者の持てる力を生かしながらリハビリ意欲が向上するような看護実践の基礎的能力を習得する。								
到達 目標	1. 疾病の回復過程や起こりうる合併症を予測し、セルフケアの自立に向けた援助を考えることができる。 2. 疾病の回復過程に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施することができる。 3. 疾患の影響で生じる ADL 低下、苦痛を把握し、患者が現状を受容し、元の生活に戻れるように支援できる。 4. 回復状態にある患者の社会復帰に向けた看護の役割がわかる。								

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	病棟	実習期間：病棟（10 日間） 実習時間：8：30～16：00（実習時間 9 時間） 実習先：社会福祉法人恩賜財団済生会支部 佐賀県　済生会唐津病院 実習方法：学生 4～5 名を 1 グループとし、10 日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：10 日間の病棟実習にて疾病の回復経過にある入院患者を 1 名受け持ち、看護師の助言をもとにリハビリ意欲が向上する働きかけや退院後の社会復帰に向けた援助を実施する。 詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	急性期・回復期・慢性期 3 か所の総合評価で 100 点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	成人看護教科書、リハビリテーション看護、その他必要な参考書や教科書は実習オリエンテーション時に提示する。
履修上の 注意点	受け持ち患者の退院調整会議など、積極的に参加し実習目的を意識した実習を行うことが必要となる。実習で判断に困った際は、臨床指導者・指導教員へ積極的に相談を行い、問題を解決する努力をすること。

科目名	成人看護 慢性期実習					DP1　DP2　DP3 DP4　DP5　DP6			看護高等課程
学年	2 年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	90 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員
科目 概要	慢性期実習では、慢性期にある患者の身体的・精神的・社会的側面について考え、病気のある人がその人らしい生活を送る為に健康状態を維持し、セルフケアの自立に向けた援助や生活習慣改善に向けた看護が実践できる基礎的能力を習得する。								
到達 目標	1. 長期的な経過をたどる病気とともに生きる患者の療養生活上のニーズを捉え看護を安全・安楽に実施できる。 2. 健康状態を維持するためのセルフケアの自立や生活習慣改善に向けた援助の必要性が理解できる。 3. 病気とともに生きる患者の長期療養を支える看護の役割とは何かがわかる。								

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	病棟	実習期間：病棟（10 日間） 実習時間：8：30～16：00（実習時間 9 時間） 実習先：社会福祉法人恩賜財団済生会支部 佐賀県　済生会唐津病院 実習方法：学生 4～5 名を 1 グループとし、10 日間の病棟実習を行う。 実習の詳細：10 日間の病棟実習にて慢性的な経過をたどる入院患者を 1 名受け持ち、看護師の助言をもとに患者のニーズを踏まえて日常生活援助を実施する。 詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	急性期・回復期・慢性期 3 か所の総合評価で 100 点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	成人看護教科書、基礎・臨床看護技術、看護過程に沿った対象看護他必要な参考書や教科書は実習オリエンテーション時に提示する。
履修上の 注意点	既習した学習が必要となるため、自己にて積極的に学習を行うことが必要となる。実習で判断に困った際は、臨床指導者・指導教員へ積極的に相談を行い、問題を解決する努力をすること。

科目名	老年看護 （病棟実習）					DP1　DP2　DP3 DP4　DP5　DP6			看護高等課程
学年	2 年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	90 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員
科目 概要	老化のメカニズムや加齢現象などの身体的特徴や精神的・社会的特徴を踏まえ、多くの人生経験を積んだ高齢者がその人らしく生きがいを持って生活できるようＱＯＬの重視と対象の生命と人格を尊重した高齢者看護が実践できる基礎的能力を習得する。								
到達 目標	1. 加齢変化と疾患が老年期の患者に及ぼす影響がわかる。 2. 疾病に伴う健康障害や治療が老年期の患者に及ぼす影響についてわかる。 3. 疾患を抱える老年期の患者・家族に対する受容や生活に対する思い、価値観を知る。 4. 疾患を抱える老年期の患者を取り巻く保健・医療・福祉の連携を理解する。 5. 老年期の患者に関わる関連職種の役割や連携・協同における看護師の役割を知る。								

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	病棟	実習期間：病棟（10 日間） 実習時間：8：00～15：30（実習時間 9 時間） 実習先：医療法人　松籟会　河畔病院 実習方法：学生 4～5 名を 1 グループとし、10 日間の療養病棟での実習を行う。 実習の詳細：10 日間の病棟実習にて入院患者を 1 名受け持ち、加齢現象が疾病や日常生活に及ぼす影響を考えながら、看護師の助言をもとに患者のニーズを踏まえて日常生活援助を実施する。 詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	老年看護実習 3 か所（病棟 60 点・施設 30 点・在宅生活サポートセンター10 点）の総合評価で 100 点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	在宅サポートセンター―パンフレット、老年看護教科書、その他必要な参考書や教科書は実習オリエンテーション時に提示する。
履修上の 注意点	既習した学習が必要となるため、自己にて積極的に学習を行うことが必要となる。実習で判断に困った際は、臨床指導者・指導教員へ積極的に相談を行い、問題を解決する努力をすること。

科目名	老年看護 施設実習（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）	DP1　DP2　DP3 DP5　DP6	看護高等課程

学年	2 年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	35 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員

科目 概要	高齢者の療養と生活の場である保健医療福祉施設について学ぶために、介護保険関連施設での高齢者と関わり、施設の概要や目的施設内の専門職種の役割を知る。対象のケアの実際の場面へ参加し、日常生活動作能力を把握し、対象が持っている力を活かして行われる援助の実際や対象の理解力に応じた対応やコミュニケーション方法など高齢者看護が実践できる基礎的能力を習得する。
到達 目標	1. 施設の概要と施設内で生活する高齢者の生活を支える専門職種と施設内職員の連携・協働の必要性と施設内看護師の役割について捉え、高齢者が安心して生活できる環境について理解することができる。 2. 老年期にある対象の生活史や価値観を理解し、尊重した態度で関わり、その人らしい生活ができるよう安全に配慮しながら実践することができる。

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	施設（入所・通所） 学内	実習期間：施設内（4 日間） 実習時間：8：30～16：00（実習時間 9 時間） 実習先：　医療法人修腎会 藤崎病院 老人保健施設　　のぞみ 社会福祉法人 唐津福祉会 特別養護老人ホーム浜玉荘 社会福祉法人唐津福祉会 特別養護老人ホーム栄荘 実習方法：学生 10 名を 1 グループとし、4 日間の施設実習を行う。 実習の詳細：3 か所の施設のうち 1 か所で実習を行う。4 日間の施設実習にて入所者や通所利用者と関わり、指導者と共にケア場面へ介入する。 詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	老年看護実習 3 か所（療養病棟 60 点・施設 30 点・在宅生活サポートセンター10 点）の総合評価で 100 点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。パフォーマンス課題、ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	必要な参考書や教科書は実習オリエンテーション時に提示する。また、適宜資料を配布する。
履修上の 注意点	施設内で日ごとに計画されている場所での見学や介助実習となるため、事前に学習し望む。また実習は積極的に行動し、日常生活援助の介助に参加する際は、指導者へ確認しながら必ず許可を得て行うこと。

科目名	老年看護 佐賀県在宅生活サポートセンター実習					DP1　DP3 DP4　DP6			看護高等課程
学年	2 年	分野	専門 臨地実習 成人老年看護	時間数	7 時間	科目 責任者	専任 教員	担当 教員	専任教員
科目 概要	高齢者の加齢に伴う心身の変化は、日常の生活全般に影響を少なからず及ぼしていく。ここでは、高齢者疑似体験を通して、当事者の視点に立つことで、より具体的に高齢者の特性の理解ができ、高齢者の生活課題や福祉用具の活用の必要性に気付いていく。その気づきから、高齢者の気持ちや、立場を思いやる心をもち、一人ひとり人の状態に合った具体的な支援と方法を考えていける。対象理解を深め、高齢者看護が実践できる基礎的能力を習得する。								
到達 目標	1.　加齢変化が高齢者の身体に及ぼす影響を捉え、生活に伴う問題点を見出すことが出来る								

	実習場所	授業内容	形態	担当教員
	佐賀県在宅生活サポートセンター	実習期間：施設内（1 日間） 実習時間：9：30～15：30（実習時間 7 時間） 実習先：佐賀県在宅生活サポートセンター 実習方法：学生 2 グループループとし、1 日間の施設見学（バリアフリー住宅・福祉器具展示）、高齢者疑似体験を行う。 詳細は実習要項を参照する。	実習	専任教員

評価 基準	老年看護実習 3 か所（療養病棟 60 点・施設 30 点・在宅生活サポートセンター10 点）の総合評価で 100 点となる。
評価 方法	出席状況と実習への参加態度、行動などで総合的に評価する。ルーブリックに基づき、ポートフォリオの内容等も総合的に評価を行う。
教科書	配布される施設の資料等は熟読し、見学の際には参考にしていく。
履修上の 注意点	疑似体験は真剣に取り組み、施設の方の説明に耳を傾け、疑問に思ったことは質問し理解を深める。 体験を通して、対象者の生活の不便さや自分達との違いを認識し、対象の生活上の問題などを想像していく。